

ヒカリ技研 株式会社

ものづくり技術

一般型

設備機械の導入で生産効率を向上 トータルエンジニアリング体制の強化を図る

事業 内容

産業用機械の設計から製造、据付までを手掛ける 工場ラインに貢献

1974年（昭和49年）、現社長・松本修司氏の義父によって産業機械、省力化機械の製造を主事業として設立された。その後、徐々に事業領域を拡大させ、現在では「調達」→「設計」→「加工」→「組立」→「据付」までを一貫して受注対応できるまでに成長した。

主な製造品としては、大手メーカーの自動車工場や液晶パネル工場のラインで使用される各種産業機械や省力機械が挙げられる。受注に関しては、既存得意先との取引が中心であるが、これらの得意先からの紹介や和歌山県主催の取引商談会などを通じて新規顧客も獲得しており、20

年前は5社程度であった得意先が、現在は30社程度までに増えている。また、営業エリアでは関西圏を中心として、中部地方の案件まで対応している。

企業規模を拡大することができた背景としては、工場ラインの機械設備を専門とし、少人数ながら設計から据付までを一貫して対応できたからであり、他に対応できる企業が多くなかったことも大きな強みとなった。

補助 事業

苦手な加工分野の内製化を目的に 新たなNC旋盤を導入

これまで同社では、直径270mm以上の金属部品の旋盤加工が苦手分野であり、外注業者を利用することによってその都度対応してきた。

しかしながら、外注業者を利用するために得意先が求める厳しい納期に対応できないという問題が生じていた。その結果、受注できるはずの案件を受注できないというケースも発生し、機械設備を導入して外注に出していた加工を自社で行えるようにし、納期をコントロールすることが必須となっていた。

さらに、受注案件の利益率を向上させるためには内製化を進めていくことは必要であり、なるべく早い段階で機械設備を導入したいと考えていた。

そこで、今回の補助事業では、苦手とする直径270mm以上の金属部品を加工することができるNC旋盤加工機を

導入することにより、内製化比率の向上を試みた。数値を打ち込むことで、各種形状加工が可能なNC旋盤加工機は、既存の保有設備との相性も良く、さらなる生産効率の向上が期待できるものであった。



ヒカリ技研 株式会社
代表取締役 松本 修司
〒649-6263 和歌山市下三毛507
TEL: 073-477-2666 FAX: 073-477-3109

〈業種〉金属加工機械・同部品製造
〈創業〉1974年
〈資本金〉10,000千円
〈従業員〉28人(役員除く)

成果

弱点の補強に一定の効果 短納期対応に大きな成果をあげる

生産工程の中で、旋盤工程の大物加工が特に弱い部分となっていたが、NC旋盤加工機を導入することにより、苦手としていた分野の旋盤部品の加工を全て社内に対応することができるようになった。弱点の克服に大きく貢献しており、また外注費の削減にも一定の効果を発揮し、利益率の改善にも繋がっている。

これまでは、外注先の仕事の状況を確認しつつ、納期回答をするといった対応を強いられていたが、機械導入後はいち早く納期回答することが可能となり、顧客からの信頼度も向上した。また、外注へ仕事を依頼している間は工程の一部が止まっていたが、このロスタイムもなくなって工期の短縮も実現した。

「品質」、「コスト」、「納期」への要求が厳しくなる中で、納期短縮は顧客へのアピールポイントとなっており、機械導

入以降はNC旋盤での加工が必要な金属部品の受注を得る機会も増えてきた。

社員全体、特に新入社員に対するよい刺激にもなったようで、ものづくりに対する意識向上にも役立っている。



今後の 展開

設備投資は一段落 失敗を許容する社内風土づくり

同社では、NC旋盤加工機を導入以降も5面加工機を導入しており、ここ数年で金属部品の加工能力は飛躍的に向上した。また、工場内が手狭になり、新たな作業スペースを確保するために敷地内に第3工場も建設した。設備投資については一段落したことから、今後は機械メーカーとして、受注拡大に注力していく意向である。

中長期的には、これまでのように新規先を増やして売上拡大路線を敷くのか、既存得意先を中心に提案型の取引深耕を図るのかは決めかねており、事業環境を見極めなが

ら時間をかけて判断していく。

今後の展開については、見極めに時間がかかるものの、以前から取り組んでいる「失敗を恐れることのない社内風土づくり」を引き続き進めていく。同じ失敗の連続は許容できないが、挑戦的な失敗を許容する社内風土を引き続き推奨していきたいとしている。従業員自らが考えて、自らで加工し製品を作り上げていくことで、従業員の加工技術の高め、ヒカリ技研の会社としての魅力向上にも取り組んでいく。

